

- 1 審議会名.....平成26年度 第1回安曇野市放課後子どもプラン運営委員会.....
- 2 日 時.....平成26年7月2日 午後7時00から8時00分まで.....
- 3 会 場.....明科支所 2階第3会議室.....
- 4 出席者.....山田委員、青柳委員、水谷委員、木下委員、黒岩委員、横内委員、洞委員、高橋委員、筒井委員、山越委員、勝家委員、内川委員、大久保委員、上兼委員、鶴田委員、塩原委員、高野委員、降幡委員.....
- 5 市側出席者.....北條教育部長、蓮井生涯学習課長、小笠原社会教育担当係長、田村社会教育担当、堀内子ども支援課長、浅川児童係長、平川児童係.....
- 6 公開・非公開の別 公開.....
- 7 傍聴人 0 人 記者 0 人.....
- 8 会議概要作成年日 平成26年7月4日.....

協 議 事 項 等

1、会議の概要

- (1) 開会
- (2) 委嘱書交付
- (3) あいさつ
- (4) 自己紹介
- (5) 会長の選出
- (6) 議事

- ①放課後子どもプラン事業について
- ②平成26年度放課後子ども教室について
- ③平成26年度放課後児童クラブについて
- ④放課後子どもプラン事業の今後の方向性について
- ⑤先進地視察について
- ⑥その他

2、議事の概要

《事務局より資料の説明》

- (1) 放課後子どもプラン事業について
- (2) 平成26年度放課後子ども教室について
- (3) 平成26年度放課後児童クラブについて
- (4) 放課後子どもプラン事業の今後の方向性について

委 員：放課後子ども教室のことだが、何年もやっていて思うが、事務局と本部の方から見に来てもらえない。公民館にいる社会教育指導員の先生に任せきりで、見に来てくれない。やはり現状を知ってもらい、各学校特徴があるので、見に来て分かってもらいたいと思う。

生涯学習課：先日穂高に行ったが、今年度は10校全て訪問したいと考えている。

委 員：子どもたちにとって一本化するために行政では子ども支援のために国から全額お金がもらえるのであって、生涯学習に移した場合はいただけないとか、そういうことは起きないのか。その辺、お金が出ないとなると、一本化するにもその辺を兼ねて考えないと、今聞くと補助金がかかり出ている。生涯学習に移したらそれは出ないとなると、だいぶ問題が出るのではないかと。

子ども支援課：どちらで実施しようと市として事業を展開することには変わりはないので、特段補助が無くあるということはない。児童館事業については今言った児童健全育成事業補助金の他に補助金が出ている。それについても出ないということにはならない。

委員：児童クラブの現状を少しお話しします。指導員は大体お子さん10名に1人ぐらい概ね配置している。全体で62人くらい主に児童クラブに係わる職員が4～5時間ぐらいの勤務でいる。この資料にもあるとおり、有資格者を配置している。児童クラブの職員は慢性的な人手不足。子ども教室ではボランティアさんがだいぶいるということで、人員的には常時満たしているのか気になる点と、一体化した運営を考えるというところで、イメージというかモデルのような運営の仕方、子ども教室の日数が増えるとか、時間の問題がもうちょっと長く、その後に児童クラブとか、具体的なイメージがあるのか。

生涯学習課：スタッフの人員について、資料にあるとおり今のところ10人に1人は確実に確保されている。スタッフの都合により若干足りないと思われるところもあるが、保護者の方やスタッフの知り合いの方など、年度の途中で登録希望をいただくこともあるので、人数で困っているということはない。

委員：スタッフの人数は足りていると言うが、ここに書いてあるスタッフは全員が出てきた場合の数であり、ほとんどが60代前後の方が来てやっているが、例えば用があって出られないとなると、人数が足りなくなる。市から委嘱していただければ、やって下さる方もしっかり来てくれると思うが、とりあえず名前だけ登録しておいて、行けなくなったらごめんねというのが多い。立場をしっかりともらい、有償ボランティアも良いとこで、大勢の子どもを預かる中、今年度はいくらか上げてもらったが、せめて最低の時間給くらいは上げてもらい、責任を持って子どもを見守れるような状況を作ってもらいたい。足りているというのは、事務局は現状を知らない。この人数だけ見て10人に1人はいると言っているが、実際には全員揃うことはほとんどない。名前だけ登録して来てくれないことが多い。もっとしっかりした立場を作ってもらいたい。さっき言ったように、たまには覗いてくださいというのはそれを言っている。

委員：私は昨年度堀金小学校で行っていたが、登録人数は160人強、常時100人から130人の子どもたちが来てるところへ、全員でスタッフが確か14人ぐらいいた。平均で10人、時には7人ぐらいで出るということもあった。民生委員とか、他に役をやっているなかなか出られないということがあり、人数の多いところでは非常に安全面で注意しなければならないということがあった。スタッフの肉体的、精神的な苦勞というのも非常に感じた。今後の方向性のところ、将来的には学校敷地内または学校近隣で児童クラブを実施することとあるが、安曇野市としてはこのような一体化、近隣または敷地内に施設を作るとのことについての、これからの長期的なビジョンというのをどう考えているのか。現在10の学校があるが、今後どのように策定していくのか、実際にどのようにしていくのか、具体的な形にしていくのか。

会長：配置に関しては、厳しいご意見をいただいた。実態を踏まえて取り組んでいただきたい。

子ども支援課：今後児童館・児童クラブをどうしていくかは実施計画等により決めている。さしあたり豊科地域には、豊科児童館を建設する予定になっている。これについては、3年前に児童館建設検討委員会というものを設置して、検討していただいた。その中で、先ほどの児童館・児童クラブの方向性であったように、できたら学校の敷地内、もしくは空き教室を利用した方がいいであろうと言われた。当時、委員会の中には南小学校の先生も入っていただき、検討させていただいた結果、今のところ学校に空き教室は無いということで、別な地に建設をしていこうということで今計画を進めているところ。具体的な場所については決まっていないが、豊科地域については高家児童館、中央児童館があるが、児童クラブの数も増えてきたので、どこか別の地域をと考えている。その他の児童館・児童クラブについては、現状それぞれ運営をしている。先ほど話があったように、最近非常に増えてきているので、めいっばい来られてしまうと施設の厳しい状況が各児童館・児童クラブのほうで見えてい

る。実は先ほどお話しした、平成27年4月からの子育て支援法の中で放課後健全育成事業の充実がうたわれており、この中ではまず指導員の資格の問題については国のほうでしっかりとした基準が設けられ、それを市で条例化しなさいとうたわれている。一方で子どもたちを預かる面積等についても参酌すべき基準として示されている。その中で今の児童クラブで受け入れられるかという、受け入れの人数については非常に厳しいものがある。また、6年生まで拡大しなさいとうたわれているので、そういった場合に、現状の既存施設では受け入れられないような状況が生まれてこようかと思う。そんなこともあって、出来れば学校の施設、もしくは近隣に出来れば既存施設を利用しながら児童クラブを実施したいと考えているが、その他等明確にこれからどうしていこうとは、今後検討させていただくということになっている。

子ども支援課：今の児童クラブ・子ども教室、子どもプランのことは、今年度策定の安曇野市子ども子育て支援事業計画の中に盛り込んでいく事業の一つとして捉えている。このことについては、児童館・児童クラブ運営委員会にも本日と同様の資料等を示し、今後の児童館・児童クラブの有り方、放課後子ども教室との有り方について、統合できる物については統合し、話を進めたいと思う。児童クラブ運営委員会についても今月中には開催をし、方向性を出していきたい。その方向性に基づき、先ほどの計画に事業として反映していくことを考えている。もう1点、児童クラブにつき、今回の法律改正に基づき、市町村での条例化がうたわれている。それについても子ども子育て会議、または児童館・児童クラブ運営委員会で検討しながら決めていきたいと思う。放課後子ども教室と一緒に、広くは放課後子どもプランの中の一つの事業としてお話しさせていただきたいと思う。

《事務局より資料の説明》

(5) 先進地視察について

委員：現地視察の案内があったが、先ほど意見にあったように、現在安曇野市内では人が足りないという意見がある。自分のところの現状・課題の把握をしたほうが良いのでは。

委員：現状を把握してもらうには「わいわいランド」は水曜日やっているし、児童館では児童クラブを安曇野市ではやっている。みんなで行かなくても、それぞれどんな状況なのか、個人個人見ていただいて、参考にしていただくのが良いかと思う。先進地を視察するのも大事なことかと思うが、安曇野市で学校の敷地内を使って、空き教室を使って今後一緒にできる方向性を探る。学校によっては難しい状況だと思う。空き教室の無い学校もあると思う。両方が一緒に、どのようにできるのか、安曇野市でモデル校をどこか作って少し動き出すのが大事かと思う。何も動かさず紙の上だけで物をやろうとするのはとても難しい。本当に一緒になって出来るのか、モデル的にやるのも大事かと思う。その辺も考えの中に入れていただくと有り難い。

委員：視察について、分かっている情報だけで教えていただきたい。連携して実施されているという部分の具体的なお話が、例えば時間のこととか、職員の配置のこととか。活動内容を見ると、どちらかという子ども教室の方の話かと思うが、具体的な情報が事前情報としてあると有り難い。

生涯学習課：後日詳しい資料が出来たら視察の案内と共に送るようにする。

会長：今意見に出たように、児童クラブも放課後子ども教室も、互いに他のところへ足を運び、できるところはやってみる。モデル校というのも今後の一つの大事なご意見だと思う。一本化をして地域の活性化を図ったりしているという状況で、東京とか、都会では長野県よりかなり進んでいるということで、視察をやって、実際に見てみて安曇野市で果たしてできるかということ。

生涯学習課：こちらでバス等手配し、皆さんにできればご参加いただければと思う。

会長：学校の校長先生方もお忙しい中だが、大事な位置に来ていると思う。信州型のプラン、登校合宿とか、学社連携、融合の世界がかなり出て来ているものだから、学校が軸になることがある。半日、ご都合のつく先生は是非、参加いただければ、先生方の意見も大事になるかと思う。PTAの方々も、仕事があるのでご無理はいけないが、実際に見て、安曇野市と比較してみて、3つの案に、個人の意見、会議の意見もまとまってくると思うので、是非計画に御協力願えればと思う。

委員：実際に、前から東京の江戸川区は区の教育委員会が児童クラブと放課後子ども教室を一体化してやっている。そして上手くいっている。まずモデル校を作った。児童館というのが、安曇野市は本来の児童館の在り方をなしていないというのが一番気になる。本来は児童館は0歳から18歳の人たちが自由に空いている時間に使える場所となっているが、児童クラブをそこで行うために、子どもたちが丁度児童館に行こうと思うときに児童クラブをやっている、なかなか思うように行かれないというのがあるので、児童館の本来の在り方を考えてみなければいけない。

(6) その他

委員：今までの話と関係ないかもしれないが、このような会議はどのくらいのペースで開催されるのか。次回はいつか決まっているのか。

生涯学習課：例年は2回。今年はその間に視察が入っている。

委員：教室とは関係ないと思うが、子ども支援課に伺う。子ども支援というのは、0歳児も入るのか。何年前前は0歳児から1歳までの子どもを対象にした子育ての教室を、週に1回なり、3か月くらい続けて市でやっていたが、今は無く、0歳児や1歳くらいの子どもたちが集まって、スキンシップの取り方や親子の会話の仕方とか、子育ての仕方とかを教えてくれる先生がいたが、そうした教室が一つもないとよく聞く。0歳児の行き場がなく、お母さんたちは児童館に行くしかない。

子ども支援課：0歳児から、子育て支援事業を行っているが、乳幼児については健康推進課で健診等、発達の関係で教室は設けている。以前、0歳から1歳、2歳、家庭教育講座ということで教育委員会でやっていたものについては、事業統合ということで、児童館で今キッズパークということで開催している。ただし、今年生まれてすぐの、3か月くらいの子は健康推進課主体でやっていただく。少し動けるようになったり、お母さんたちがちょっと出たいというときであれば、各児童館で開催しているキッズパークに行き、今まで家庭教育講座をやっていたものを推奨していただいている部分があるので、そちらを利用していただく形になっている。

委員：教育委員会でやってもらったほうが、家庭教育講座は行き良いというか、なにもかも社協に丸投げと感ずる。

子ども支援課：指定管理という中で担っていただいている部分がある。家庭教育講座についても、教育委員会と話を2年近く進めてきた。市の組織改編等もあり、同じものを別々の部署でやっている。全地域に対してのサービスが無かった。今回、9館を全て指定管理にした。内容を細かく決め、社協に取り組んでいただいている。以前そこで教えていただいた講師にも、そちらに出向いていってもらっている。市内全域9地区で均一したサービスを目標に、教育委員会は止め、児童館が全て整ったので、そちらでやっているという状況。これについては今後も見直し等はかけていく。今のようにご意見等あれば反映していきたい。

委員：今の説明で分かってきたが、市の方針を広く、一番困っているお母さん方はもちろんだが、市民の方々に周知する方法をぜひとも。ただ広報、放送を流すだけでなく、保育園・学校等、いろんな所で大事な部分、その道筋を簡単に分かりやすく説明して、分かっているような方法を取っていた

だけないものか。

子ども支援課：それぞれの立場でやっているとは思いますが、子ども支援課としても、子育て支援事業メインとなるので、今のご意見を参考とさせていただき、どこかで一本化した中で周知できるよう検討したいと思う。今回の計画の中にもその言葉を盛り込みながら考えていきたい。

会 長：この趣旨にあるように、子どもたちの安全・安心な施設の関係、それから地域の協力を得て心豊かに健やかに育まれる環境づくりの推進というような視点で、ご意見があったら事務局の子ども支援課、生涯学習課の方にご意見等いただければ子どもたちのためになるのではないかと思います。